事務事業評価表

1．基本事項

作成日　令和03年06月23日（水）

事務事業	消防活動事務	担当課	深谷消防署	担当係	深谷消防署	管理番号	4522
第2次総合計画		事業区分	■ 自治事務	□ 法定受託事務 →	対象拡大 有□ サービス拡充 有□		
行政分野別	大項目 200004 安心とやすらぎを感じられるまち（暮らし・環境）	根拠法令個別計画等	・消防法 ・消防組織法 ・消防力の整備指針 ・深谷市消防警防規程				
施策名	中項目 200001 備えができ、安全・安心なまちづくり						
計画名	小項目 200002 消防・救急体制の充実						

事業概要	複雑多様化する各種災害に対して、消防職員の訓練、研修等を実施し技術、知識の向上を図る。 各種資器材の点検、整備により、消防活動に必要な資器材を常時使用可能な態勢に整え迅速、的確な消防活動を遂行する。
目的 ※何のために	市民の生命、身体及び財産を各種災害から保護するとともに、被害の軽減を図る。
対象 ※誰・何を対象に	市民の生命、身体及び財産
手段 ※どのように	複雑多様化する災害に対応するため、訓練、研修を実施するとともに、資器材の点検、整備を行い災害等による被害の軽減を図る。
成果 ※何を求めるか	業務の総合的な強化、充実を図り、迅速に各種災害活動を行い損害を最小限に留め、市民の生命、身体及び財産を守る。
執行体制	■ 市職員　□ 一部委託　□ 全部委託　□ 指定管理　□ 市民ボランティア　□ NPO 民間団体　□ その他（　　）

事務事業を構成する予算事業

会計区分	款	項	目	細事業名	前年度決算額（円）
	00	00	00		0
	00	00	00		0
	00	00	00		0
	00	00	00		0
	00	00	00		0

本事業の主な業務

・水火災の災害対応業務	・事業所等の消防訓練指導
・消防訓練の立案、調整、実施に関する業務	・各種報告書、統計及び即報の作成事務
・警防調査及び水利の点検に関する業務	・
・消防資器材の維持管理業務	・
・火災原因及び損害の調査	・
・り災証明発行事務	・

2．事業費（投入コスト）

単位：円

区分		平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
年度別計画							
事業費	予算（現額）	0	0	0	0	0	0
	決算額	0	0	0	0	0	0
財源内訳	国支出金	0	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0	0
	他特定財源	0	0	0	0	0	0
	一般財源	0	0	0	0	0	0
人件費	従事職員数（人）	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10
	人件費相当試算 ※1	777,900	778,200	786,100	813,600	813,600	813,600
		0	0	0	0	0	0
（総事業費試算）		777,900	778,200	786,100	813,600	813,600	813,600

※1　人件費相当額試算は、従事職員数に平均人件費を用いて試算したものです。

事務事業評価表

３．評価指標

グラフ表示	区分	指標名		単位	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標なし
■	活動指標１	火災出場件数（暦年）	目標値	件							■
			実績値		64.00	34.00	42.00	26.00	0.00	0.00	
		年度別目標値の設定根拠		火災出場件数であり、目標値の設定に値しない。							
		出場件数									
■	活動指標２	訓練、研修回数	目標値	回	22.00	44.00	44.00	44.00	44.00	44.00	□
			実績値		22.00	43.00	44.00	44.00	0.00	0.00	
		年度別目標値の設定根拠		年間訓練計画に基づく目標値とする。							
		実施回数									
□	活動指標３	資器材点検実施率	目標値	%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	□
			実績値		100.00	100.00	100.00	100.00	0.00	0.00	
		年度別目標値の設定根拠		１００%の資器材点検を目標とする。							
		実施日／３６５日×１００									
■	成果指標１	資器材常時使用可能率	目標値	%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	□
			実績値		100.00	100.00	100.00	100.00	0.00	0.00	
		年度別目標値の設定根拠		車載されている全資器材の常時使用可能率。							
		使用可能数／全資器材×１００									
□	成果指標２	火災による死傷者数（暦年）	目標値	人							■
			実績値		7.00	7.00	6.00	6.00	0.00	0.00	
		年度別目標値の設定根拠		火災による年間死傷者数であり、目標値の設定に値しない。							
		火災による年間死傷者数									
□	成果指標３	火災１件当たりの焼損棟数（暦年）	目標値	棟	1.49	1.59	1.59	1.59	1.59	1.59	□
			実績値		1.71	1.42	1.26	1.16	0.00	0.00	
		年度別目標値の設定根拠		前年の埼玉県の値とし、より現実的な目標とした。（平成２９年数値）							
		年間焼損棟数合計／年間建物火災									

４．観点別評価　（A：目標値どおり（以上）　B：ほぼ目標値どおり　C：目標未達成　ー：目標値の設定がないもの）

活動 （意図した活動を行っているか）	A	目標が設定できないものは、活動指標の数値の推移を説明 訓練及び研修は計画通りに実施でき、資器材は日々の点検や整備を行うことで、訓練や活動時に使用することができた。
成果 （意図した成果が上がっているか）	A	目標が設定できないものは、成果指標の数値の推移を説明 訓練や研修、資器材の維持管理を適切に行ったことにより災害現場において有効に活動することができ、「火災１件当たりの焼損棟数（目標値）」を減少することができた。
効率性 （効率的に事務を行っているか）		目標が設定できないものは、効率指標の数値の推移を説明
		評価者　消防係長　新井剛・荻野公規

５．前年度改善改革プラン達成状況

前年度 改善・改革案	深谷式消防戦術「Ｆａｓｔ　Ａｔｔａｃｋ　ＰｒｉｄｅⅢ」の運用により今年度の指標値を達成するとともに、地水利調査等を活用し「出場から現着までの時間短縮」を図り、ホース延長要領等の改善を行い「現着から放水開始までの時間短縮」を図る。それに伴い、効率的な活動を追及し、市民の生命、身体、財産の被害の軽減に努める。
達成状況 及び その効果	深谷式消防戦術「Ｆａｓｔ　Ａｔｔａｃｋ　ＰｒｉｄｅⅢ」の運用によって、現場での各隊の行動が明確化され、効率的かつスムーズな連携活動を行うことができた。また、ホースバック等を使用したホース延長訓練を行うことにより、放水を開始する時間の短縮に繋がった。これにより、火災による「火災１件当たりの焼損棟数」及び「火災による損害額」を減少することができた。

事務事業評価表

６．所属長評価（今後の方向性）

事務事業	消防活動事務	担当課	深谷消防署	担当係	深谷消防署	管理番号	4522

■ ① 現状のまま継続
□ ② 見直して継続 →
□ ③ 拡充・重点化（コスト投入）
□ ④ 目的達成による終了
□ ⑤ 廃止を検討

□ 委託化等の検討
□ 成果向上のための改善
□ 効率化のための改善
□ 事業規模の縮小
□ 他の事務事業と統合

評価の内容説明

市民の安全、安心を確保するため、火災がいつ発生しても安定した消防力を発揮しなければならない。　深谷式消防戦術「Ｆａｓｔ　Ａｔｔａｃｋ　ＰｒｉｄｅⅢ」の運用により、現場活動の強化が図られ、出場から放水開始時間までの時間短縮により建物火災の焼損棟数の減少が見込まれる。今後も訓練の継続により更なる被害の軽減を目指し、市民の期待に答えなければならない。

評価者	深谷消防課長　小林　晃昌

上記を実施するための具体的な取り組み内容は？

７．改善改革プランと今後の課題

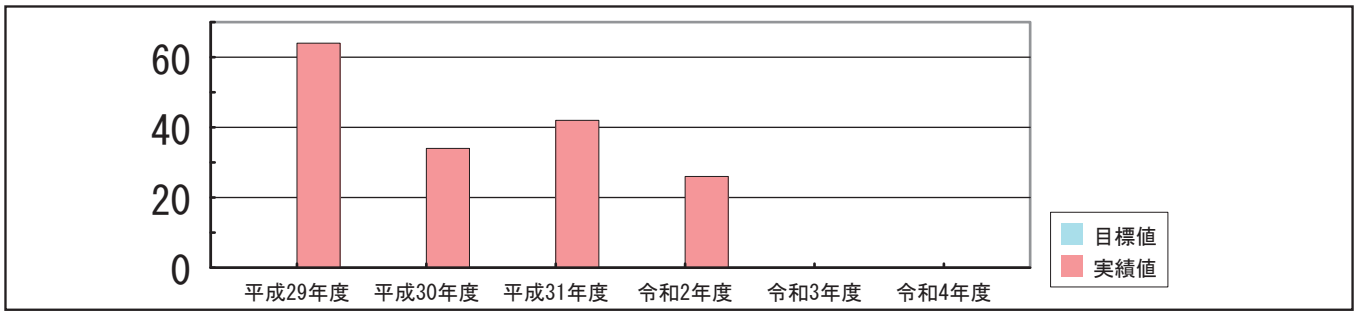
改善・改革案	深谷式消防戦術を運用し、「出場から放水開始まで」の時間を令和４年度の指標値である６分３０秒（まちづくり指標値からそれぞれ年度ごとに目標を設定）を目指す。そのために、災害現場までの適切なルート選定が行えるよう地水利の把握に努め、出場から放水開始までの時間短縮を図る。さらに、迅速なホース延長及び早期放水体形を構築するための訓練を通して、火災による被害の軽減を図る。

８．今後の課題（年度別計画等により実施する取り組み等）

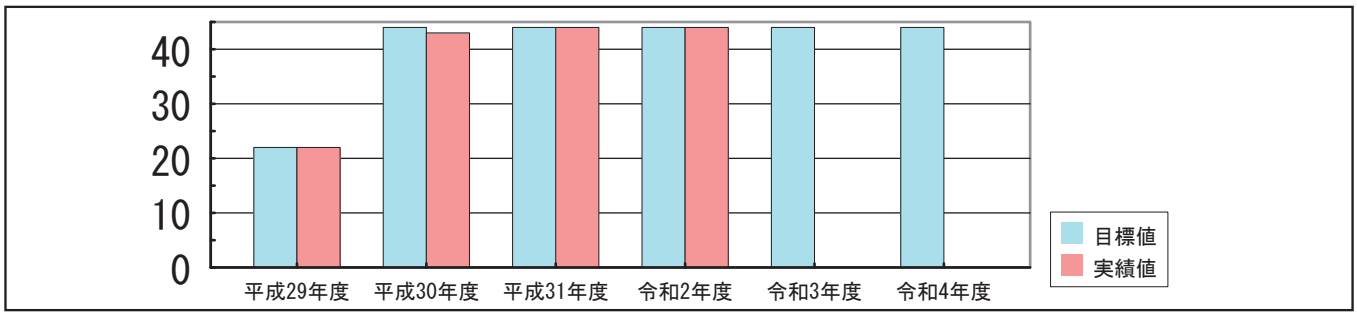
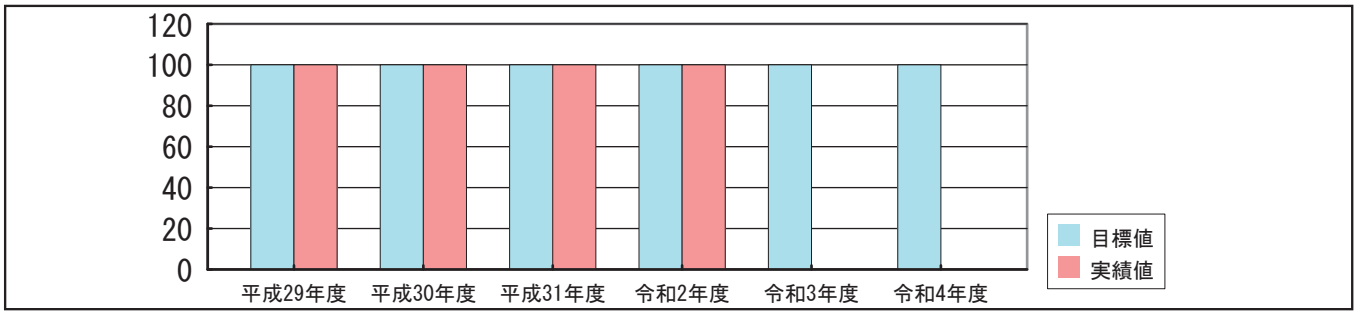
今後の課題	深谷式消防戦術の定着により「出場から放水開始まで」の時間短縮が図られている。火災による被害を軽減するため、火災性状及び災害状況を早期に把握し、適切な消火戦術を展開しなければならない。そのためには、消火戦術について情報共有を図り、火災に対して統一的な認識のもと、安全、確実な活動を行うことで被害の軽減を図る。

９．評価指標グラフ

区分	活動指標１	指標名	火災出場件数（暦年）



区分	活動指標２	指標名	訓練、研修回数



区分	成果指標１	指標名	資器材常時使用可能率